



# 藤沢市文書館を考える

この夏はとても暑い日が続いた。暑いから外に出かけるのはできるだけ避けて、在宅オンラインで情報探索をする日々が続いていた。そんな8月のある日、FB友だちの一人が「藤沢市文書館はどうなってしまふのだろうか?」というコメントを書き込んでいるのを発見。なんのこともわからないので、「これ、どうしたことなのか、教えてください」と聞いてみた。そこから、思わぬ展開が始まった。

## 【藤沢市の「OUR project 基本計画（素案）」】

8月はじめから藤沢市では文書館の機能を分割し、新たな市民会館施設の中に展示や講演会機能を取り込もうとする「OUR project 基本計画（素案）」を公表し、9月6日〆切でパブリックコメント（パブコメ）の募集が始まっていた。私がそれを把握したのは、8月下旬にさしかかったころだった。藤沢の近隣自治体の文書館といえば、寒川文書館である。思い立ってこちらを訪ねた。そこでは、「もうパブコメが始まっているから、事態は相当進んでいるのでは」といった感触を聞き、それでも多くの関係者が声をあげる≠パブコメに沢山の投稿が行われるように関係方面に働きかけて、藤沢市文書館が市民会館の一部に取り込まれることを何とか再考してもらいたいという藤沢市民と利害関係者の意見をぶつけてみよう、と私は決心した。

私はこの件パブコメ募集開始後の8月中旬に把握した。筆者は、藤沢市民として、またアーキビストとして、これは由々しき事態と考えた。なんといっても藤沢市文書館は全国市町村の先陣を切って設立された文書館であり、藤沢市文書館は藤沢の宝物であり、藤沢市民にとっては藤沢市文書館の存在は大きな誇りである。そこで、情報を知らせてくださった方たちをはじめ、思いつく方々にパブコメ投稿を呼びかけた。

8月も終わろうかという時期に始めたパブコメ運動は、身近な住民の皆さんだけでなく、利害関係者ということで、遠方在住で文書館の資料を利用してきた方々にも広がりを見せた。パ

ブコメは9月6日、締め切られた。

## 【たくさんのパブコメ】

10月のある日、市役所の生涯学習課を訪ねた。この時、生涯学習課長から文書館に関するパブコメ投稿が「とてもたくさん」出されたことを知らされた。8月下旬に活動を始めた当初、パブコメによる意見表明などほとんど意味がないだろう、といわれたことを思い出しながら、それでも数の力はこうした意見募集の時には一定の威力を発揮するらしいことを、体験的に知ることとなった。

## 【藤沢市文書館を考える会】

このパブコメ運動に続き、「藤沢市文書館を考える会」としての活動への趣旨賛同者に参画を促し【藤沢市文書館を考える会】を立ち上げた。発起人には藤沢市民の近隣友人知人はもちろん、文書館関連その他資料保存関連のつてをたどり約20人の有志が名を連ねて下さった。第1回会合は10月20日夜のzoom会議、20名余が参集する、予想外の大きな会合となった。

この中で住民S氏の「文書館は子供たちのための施設だ!」という言葉聞いて、資料保存に固まっていた自分に気付かされた。これは住民目線からの大きな一言、まさに目からウロコであった。

考える会立上げに当たり、藤沢市役所記者クラブに関連情報の投込みを行った。これが広報担当の目に留まったらしく、文書館長から意見交換の機会をという提案メール着信、11月22日に実現した。文書館長のほか、企画政策課長、文書統計課長補佐ら約10人の市職員の皆さんと考える会事務局4名の意見交換が行われた。11月下旬にパブコメの集計結果が公表された。77件の投稿中30件以上が文書館に関連するコメントであったこと、公文書管理条例の改正は別扱い、行政文書の保存、管理、利用等の業務は、文書館の基幹業務として継続する旨の一文が盛り込まれたことを確認した。一定の成果を得たと言えよう。皆様へ感謝!! (ち)

## おもな内容

## DJIIレポート No.133 20231225

藤沢市文書館を考える	1
散歩道 久しぶりにジュネーブ/JSAI 大会ポスター発表	2

文献紹介/あしあと	3
活動/巻末随想	4

## 【アーキビストの散歩道】

### 1. 久しぶりにスイスへ

10月の最初の2週間、スイスのジュネーブに行ってきました。2009年から仕事仲間と続けてきたボランティア活動を4年ぶりに再会したのです。で、どんなボランティアかというと、UNHCR 国連難民高等弁務官事務所が保存している公文書記録（アーカイブ資料）の整理作業を行ってきました。UNHCR とは緒方貞子さんという日本人女性が、国連難民高等弁務官として1990年から2000年まで10年間大活躍をされた組織です。そして、今年私たちのボランティア作業対象は、緒方貞さんが国連難民高等弁務官だった時代の公文書資料で

した。緒方高等弁務官の公文書をバインダーから外して、二つ折りの厚紙のフォルダに入れ替えて、検索用の記号番号を鉛筆書きして、そのフォルダをアーカイブボックスと呼ばれる大型のファイルボックスに収納する仕事でした。時には緒方高等弁務官自筆のサインを目にすることもあって、緒方貞子という人物をとっても身近に感じる2週間でした。

写真 左から UNHCR 地下書庫緒方資料収蔵棚、整理作業前の緒方資料、UNHCR 第2会議室（緒方メモリアル会議室）、UNHCR 殉職者追悼室



### 2. 全史料協全国大会（東京）ポスターセッション雑感

5月にコロナ対策が解除されたので、対面の会合ができるようになった。恒例でありながら、オンライン会合が主流になっていた様々な会合が、今年は対面での開催になった。筆者にとって秋の恒例行事である全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）の全国大会は、今年は東京開催であった。畏友大西愛氏がスイスのボランティア活動についてのポスターセッションをエントリーしたので、その説明要員として、筆者も全史料協全国大会に参加した。11月30日は所用で夜の懇親会から参加した。翌12月1日は、ポスターセッション開催時間に合わせ、ゆっくりと会場入りし、早めの昼食を済ませてから、昼休みの観覧者を待った。ポスターセッション会場は、主会場ホールの3階左奥に設けられていた。階段がシニアにはなかなか厳しいが、観覧に訪れる皆様には問題にもならない様子だった。

ポスターは大西氏が考案した。それはとても美しくわかりやすいもので、2009年から続けてきたUNHCR 国連難民高等弁務官事務所における海外アーカイブ・ボランティアの会の活動内容を簡潔に、楽しく見せていた。

筆者が観覧された方に伝えたかった事、それは

UNHCR アーカイブセクションに働く人々の役割分担と専門性発揮のありようであることを、説明を繰り返すうちに自覚した。画像処理の専門家のローラは、資料に含まれる1990年代の感熱紙資料（ファックス）の情報の復元のために工夫を凝らしている。書庫に資料を配置する専門家のチェリは、書庫にあるすべての資料（バインダーやアーカイブ箱）を原配列通りに書架に配置する。彼はアーカイブ課に移管されてきた資料に、原配列通りに記号番号を書き込む。彼が書き込んだ記号番号は、最後にはアーカイブ課が管理するUNHCR所蔵のアーカイブ資料の検索キーとなる。書架上にあるすべての資料は、必ず番号順に配架されていなければならない、これがチェリが担当する業務であり、彼の誇りとするところに見える。その地道でゆるぎない配列の記号番号付与の仕事は、私にはUNHCRのアーカイブ資料管理の基盤に見えてくる。そう考えると、専門家という言葉の意味が、UNHCRと日本では少し違うようにも感じられる。2009年当時、私たちは違う組織のアーカイブ業務を知りたいと思ってこのボランティア活動に取り組んだ。その当時の思いは、このような作業に従事したことで満たされたと思う。（ち）

## ●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼

## ●牧野富太郎標本展と植物標本のラベル

これは、文献紹介ではないかもしれない。でも、紹介したい内容があるので、ここに記す。

2023 年度前半の NHK 朝ドラ「らんまん」は、植物学者牧野富太郎の伝記だった。筆者は子供の頃、牧野富太郎を扱ったラジオ番組を聞いた記憶があったので、このドラマもとても楽しく視聴した。ドラマが終わりに近づいたころ、NHK は牧野富太郎の標本展の「コマーシャル」をたて続けに放映していたようだ。にわか牧野ファンの筆者は、これに揺さぶられて、牧野標本館の展示を見に行くことにした。八月の暑い日に、東京都立大学めざして午前中に家を出て、何とか午前中に到着することができた。キャンパス入口から牧野標本館までは、炎天下を 10 分か 15 分くらい歩いた。入口では、入場者数を数えるために、どんぐりを一粒、傍らの竹筒に入れるようになっていた。配布されるパンフレットもなく、ひたすら展示物を見る。1 回目はひたすら展示物を見て回った。その中で、標本に付されたラベルが筆者にはとても興味深いものに見えた。そのシステムはどうやらシーボルトに由来するらしかった。筆者は 1 回目の見学からあまり間をおかず、もう一度この展示を見に出向いた。2 回目は、標本に付されたラベルに注目し手見て回った。途中で疲れてしまい、DVD 視聴用の椅子で休憩し、また見学した。この時、

## ●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJレポート No.133 20231225 A4 判 4 頁 PDF (本誌) 掲載先 URL: [www.djchiiyoko.com](http://www.djchiiyoko.com)

▼「祝!『アーキビスト』100号』『アーキビスト ARCHIVIST』2023.9 No.100 P.2 掲載

▼「久しぶりにジュネーブ」『コミュニティだより

ようやく筆者は正気に戻り、展示されている植物標本がとてもよくできたカラーコピーであることに気付いた。立体的に見える植物の茎や花の凹凸が、実はコピーによる印影であることがわかった時には、そのカラーコピーの出来栄に正直なところ脱帽だった。でも、それよりなにより、標本に付されたラベルの情報はすごかった。標本植物を採取した人名、場所、年月日に始まり、植物を標本に作った人名、年月日、標本に基づき登録事務を担当した人名、年月日等々、その一つの標本が今日に至るまでの様々な処置について、どれも克明な記録がラベルとして標本に付されている。水も漏らさぬ記録ぶりに、心底関心してしまった。しかも、そのシステムがシーボルトに由来するらしいというのだから、その奥深さに脱帽であった。シーボルトがオランダ人ではなくドイツ人だというハナシと、筆者が抱くドイツ的記録システムの組み方と、牧野富太郎標本展で見た牧野標本に付されたラベル情報記録システムはぴったり一致していた。



辻堂東海岸 3 丁目町内会報』No.75 2023/11/10 4 面 (本誌 2 頁に転載)

■UNHCR 緒方貞子高等弁務官の資料整理と海外アーカイブ・ボランティアの会の活動報告 口頭発表会場 (株) カネカ 東京本社 2023.12.14

## DJI 国際資料研究所の主な活動 2023 年 8 月 1 日～2023 年 12 月 15 日

## &lt;執筆&gt;

DJI レポート No.133 20231215 A4 判 4 頁 PDF (本誌)

ナスの日通信 7 月号、9 月号、11 月号 メルマガ

「久しぶりのジュネーブ」 No.75 2023 年 11 月 30 日 東海岸 3 丁目町内会コミュニティだより

## &lt;出講&gt;

10 月 17,24,31 日 11 月 7,14,21,28 日 12 月 2,5,12 日 東京学芸大学「博物館資料保存論」東京

## &lt;主宰&gt; 藤沢市文書館を考える会

8 月 24 日 寒川文書館訪問、藤沢市文書館の件打合せ

8 月 29 日 井上裕介藤沢市議会議員及び生涯学習課長と OUR project 報告書(素案)につき面談 藤沢市議会会議室

10 月 20 日、12 月 20 日 藤沢市文書館を考える会 ワライ

11 月 8 日、12 月 4 日 藤沢市文書館を考える会事務局会議ワライ

11 月 22 日 藤沢市文書館長他 7 名と「考える会」事務局 4 名意見交換会 藤沢市役所 その後藤沢市文書館見学

12 月 14 日 海外アーカイブ・ボランティアの会 2023 活動報告会 会場は (株) カネカ東京本社 六本木、東京

## &lt;参加&gt;

8 月 26 日、10 月 28 日 東海岸 3 丁目町内会役員会東海岸市民の家、藤沢

10 月 2～13 日 海外アーカイブ・ボランティアの会

UNHCR ボランティア活動、緒方貞子第 5 代国連難民高等弁務官資料整理 UNHCR 本館、ジュネーブ、スイス

10 月 20 日 高齢者運転免許更新講習会 三共自校 藤沢

11 月 25 日 千種台東京 39 会 ヲカゲイ市ヶ谷 20 人参加

11 月 30 日、12 月 1 日 全史料協全国大会 ポスターセッション説明 駒澤大学 東京

12 月 15 日 aibi さんと崎陽軒中華食堂他、横浜



<見学>

8月18,24日 牧野富太郎標本展 東京都立大学  
 10月11日 ロール城アーカイブ見学,ヴァン県,スイス  
 11月14日 東京学芸大学大学史資料室、同大博物館資料  
 保存論授業の一環、小金井市  
 12月2日 神奈川県寒川文書館、東京学芸大学博物館資料  
 保存論授業の一環 神奈川県寒川町

<その他>

8月5~6日 箱根対岳荘静養  
 8月7,14,21,28日 9月4,11,18,26日 10月23,30日  
 11月6,13,20日 12月11日ラウラ先生とル語お稽古  
 8月12日 小川家8月生まれ3人の誕生会 天青 茅ヶ崎  
 8月19日 辻堂太平台夏祭り 辻堂小学校  
 8月28日 吉田あつき県議事務所訪問

9月19日 紀伊國屋書店打合せ 神戸市内現地  
 10月4日 モンちゃん宅お呼ばれ ジュネーブ  
 10月10日 gorka 誕生7日目のお祝い訪問 ジュネーブ  
 10月26日 TMU オケラの会 6人参加 新宿  
 10月27日、11月16、30日 紀伊國屋書店打合せワライ  
 11月2日 ミエコさん来訪 海見物、小川宅  
 11月4日 旧交を温める会 オンライン5名参加  
 11月21日 東京学芸大学 ICTセンター PC個人講習  
 11月23日 東海岸シニア3人の会 小川宅 藤沢,神奈川  
 11月24日 聖橋界限散策(近代教育発祥の地看板) 東京  
 12月1日 変貌中の渋谷駅徒歩見学 w/大西 東京 渋谷  
 <健康管理>  
 8月~12月 医療受診録 辻堂金沢クリニック4回 つるし  
 げ歯科4回 ほしの眼科3回 はじめクリニック(予防接  
 種)1回 マリソル整形外科2回 辻堂南口耳鼻科3回

■ 巻末随想

● 私のデジタルデバインド

しばらく前から、インターネットだとか、スマホ  
 だとかの扱いがとても億劫になってきた。なぜ、  
 こんなに億劫なのだろうか。一

【用語】一つは、用語の問題だと思う。カタカナ  
 語ばかりの説明書を画面で診たり読んだりしても、  
 サッパリ頭に入らない。とりわけ動詞がカタカナ  
 語になっていると、そこに気を取られてしまうの  
 で、意味にたどり着けなくなる。これ、困るな。

【短期的記憶能力の低下】つまり、短期的な記憶  
 が機能しないので、「ヘルプ」などのボタンを押  
 してやり方を読む。そこまでは行ける。だが、そ  
 の次に、さっき読んだばかりのやり方を実行しよ  
 うと思ったら、今度はその前の画面に戻れなくな  
 ってあたふたする。何とか前の画面に戻れても、  
 その間あたふたしたために、さっき読んだやり方  
 がもう思い出せない。つまり、アタマに記憶され  
 ていないから、どうにも手も足も出ない。

【画面の操作方法がわかりにくい】ならばもう一  
 度さっきの画面を見よう、と思っても、戻り方が  
 わからずあたふたして、そのうち何をしようとし  
 ていたのかまで忘れてしまい、その件は打ち切り  
 となる。新しいことをやりたくても、入口まで到  
 達したところで、ドアの開け方がわからず立ち往  
 生、やむなく撤退といったところだろう。自分で  
 もこれは情けないと思う。でも、いちいち説明書  
 を印刷せねばならぬとすれば、これも不経済だし、  
 どうしたものなのだろう。

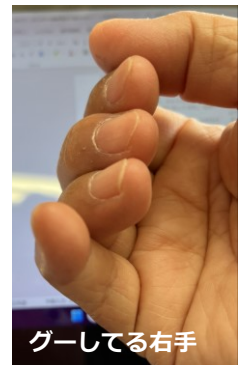
【解決方法は…】結局、若い人を呼びつけて、助  
 けてもらうのが一番手っ取り早いということが見  
 えてきた。でも、凄く年寄りぽくて、それが事実

であることは百も承知だけど、受入れ難い。それ  
 で不機嫌になる。ワ〜ン！と声が出てしまう。し  
 ばらく叫んでみて、あ、これは年齢的に当りまえ  
 か、と不承不承気持ちをおさめる自分が悲しい。  
 デジタルデバインドなんて、なぜかしらと求めてい  
 た昔の自分が懐かしくもあり、不遜にも思われる。

【加齢による脳力劣化】脳みその経年劣化がある  
 のは、論理的にはよくわかっているつもりなのだ  
 が、その劣化による症状が一時的記憶能力の低下  
 ~喪失として出てきたために私のデジタルデバイン  
 ドはデジタル世界での新しい試みを追い求めるこ  
 とがとても困難になってしまったようだ。残念。

● 曲がって曲がらぬ私の小指

デジタルだけでなく、実世界でも  
 体力的能力的劣化を感じるこ  
 とが増えてきた。20年くらい前から  
 右手小指が曲がり始め、今はグ  
 ーができない。大したことない、と  
 思っていたが最近実害発生。自販  
 機でコインのおつりを取ろうとす  
 ると硬貨が手からこぼれる。これ  
 は金額の多寡は別にしても、経済  
 的な実害を伴うのでとても不便  
 だ。手書きで字を書く時も、小指  
 が筆圧とか線の勢いなどで均衡を保つためとても  
 大切な役割をしていたことが、書いた文字の乱れ  
 から改めて明らかになった。老筆になっているの  
 だ。更に先日はSuicaが手から落ちたのに気づか  
 ず、紛失してしまった。幸い拾得物として警察か  
 ら連絡があった。でも、その時手からこぼれ落ち  
 たことは全く分からず、であった。(ち)



グーしてる右手